

齋藤 真一（さいとう・しんいち）

1、プロフィール

昭和 22 年アスナロ短歌会入会。横山武夫に師事。教育者としての傍ら、歌集『暁滴集』『石庭』『暁滴集以後』を発行。歌壇の指導者として高い業績を遺した。

<生没>

1911(明治 44)年6月5日～1989(平成元)年2月 21 日

<代表作>

歌集『暁滴集』『石庭』『暁滴集以後』

<青森との関わり>

明治 44 年6月5日、齋藤岩蔵の長男として函館市において誕生。昭和9年青森市に居住、県歌壇において活躍。

2、作家解説

明治 44 年、齋藤岩蔵の長男として函館市に誕生した齋藤真一は、函館中学校在学中の昭和2年、先輩桜田角郎の奨めで短歌を作り、アララギ会員となり、岡麓選にて短歌発表を続ける。昭和9年4月、青森市立夜間中学校教諭としての赴任を機会に青森市に居住。12 年4月、青森、函館合同歌会を函館湯の川温泉で開催、中心として活躍する。21 年、青森市立第二中学校教諭。22 年6月、アスナロ短歌会に入会。23年2月、青森市立第二中学校校長。31年4月、青森県立盲・ろう学校校長。41 年4月、青森県立浪岡高等学校校長。44 年4月、青森県立青森北高等学校校長。47 年3月、定年退職。48 年 12 月、第1歌集『暁滴集』発行。51 年5月、第2歌集『石庭』発行。62 年8月、文部大臣表彰受賞(教育功績)。平成元年2月 21 日、膵臓癌にて死去、(青森市新城字石江の自宅)。同3月、勲四等旭日小綬章を授与さる。正七位、従四位に叙せられる。平成2年2月、石澤善次郎の尽力により、第3歌集『暁滴集以後』を発行する。

『暁滴集』の作品

雨のあとの滴したたる音聞こゆこの暁の暗きめざめに

3、資料紹介

○歌集『暁滴集』

図書

1973(昭和 48)年 12 月 25 日

187mm×122mm

第1歌集。島木赤彦、横山武夫を尊敬し、人生の真実を求めて作歌を継続してきた斎藤真一が昭和4年から46年までの歌697首を収める。著者はあとがきで、「私は短歌はその人の生活の表現であり、その生活は己の真実を掘りさげてゆく過程に外ならないと思っている」と述べている。